



1. マーケット・レート

			11月8日	11月11日	11月12日	11月13日	11月14日	Net Chg
為替	USD/BRL	Spot	4.1680	4.1480	4.1640	4.1770	4.1890	+0.0120
	BRL/JPY	Spot	26.21	26.28	26.17	26.06	25.87	-0.19
	EUR/USD	Spot	1.1022	1.1033	1.1009	1.1007	1.1021	+0.0014
	USD/JPY	Spot	109.21	109.05	109.00	108.78	108.43	-0.35
金利	Brazil DI	6MTH(p.a.)	4.460	4.447	4.457	4.465	4.451	-0.014
	Future	1Year(p.a.)	4.516	4.486	4.528	4.552	4.584	0.032
	On-shore	6MTH(p.a.)	2.654	2.636	2.690	2.663	2.638	-0.026
	USD	1Year(p.a.)	2.717	2.696	2.689	2.637	2.560	-0.077
株式	Bovespa指數		107,629.00	108,367.40	106,751.10	106,059.90	106,556.90	+497.00
CDS	CDS Brazil 5y		116.11	117.70	119.37	121.37	122.18	+0.81
商品	CRB指數		181.275	179.413	179.804	180.312	180.088	-0.225

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインデックスです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。

2.週間市況、トピックス

- 今週のレアルはチリの政情不安を背景にチリペソなど南米通貨と連動しながら4.10台後半で推移。
- 11日(月)、レアルは4.1610で寄り付いた後、前週末にルラ元大統領の釈放を受けて急落したレアルに対する反発買いが広がり、週間高値4.1360まで上昇した。12日(火)のレアルは反落。チリにおけるデモを背景にチリペソが急落したことを受け、レアルも下落。米トランプ大統領による米中通商協議に関するやや後ろ向きな発言や香港情勢の緊迫化もレアルの重石となった。13日(水)のレアルは小幅に続落。米パウエルFRB議長が上下両院合同経済委員会で政策金利を当面据え置く旨発言し、米株式はこれを好感、ダウ工業株30種平均は史上最高値を更新した。他方、チリペソ起点の新興国通貨に対する下押し圧力にも押され、レアルは上下に触れながらも前日比やや下落してクローズした。14日(木)は国外で目立ったイベントを欠くなか、チリペソと連動し終始軟調に推移。週間安値4.1970を示現し、結局4.1890で越週した。
- 先週まで、ブラジルCDSは過去最低水準にて推移し、ボベスパ指数も過去最高値を連日更新していたものの、今週は南米地域の政治的な不透明感の台頭を背景に、CDSにはワイド化、そして株価は下落に転じている。
- 11日(月)発表のブラジル中銀によるアナリスト予想集計では、経済成長率予想について2019年は0.92%で据え置かれた一方、2020年は2.00%から2.08%に上方修正された。インフレ率予想は2019年が3.29%から3.31%に上方修正された一方、2020年は3.60%で据え置かれた。年末の為替レートについては2019年、2020年ともに4.00で据え置かれた。

3.今週のチャート&ハイライト



ブラジル最大の石油鉱区入札は低調な結果

南米チリでは、先月以降、地下鉄料金引上げを契機とした政府デモが続いている。デモ隊の幹線道路封鎖などにより経済活動への影響が広がっているほか、今月開催が予定されていたアジア太平洋経済協力首脳会議も中止を余儀なくされた。政府は改憲などを通じた懐柔を試みてはいるものの、事態沈静化の兆しはみえない。金融市場では資金流出を防ぐための介入が講じられたが、チリペソ安の流れは留まらず、物価急進による実体経済への悪影響も懸念される。

ボリビアでは選挙不正により大統領が辞任に追い込まれ、ブラジルでもルラ前大統領釈放により政策運営に不透明感が漂うなど、南米地域の政局不安は当面レアル相場の重石となろう。



4.来週の為替市場注目点

予想 ドル・レアル相場レンジ：4.05—4.25

来週のレアルは、南米地域の政治不安を背景に引続き軟調に推移する展開を予想。

足許、南米地域の政治不安を背景にレアル相場は軟調推移が続く一方、同地域外では米中協議に対する不透明感の後退を主因としたリスクオン相場が続いている。足許、レアル相場とチリペソなど域内通貨との相関性が高まるなか、チリの反政府デモが収束する兆しが現時点でみられないことを踏まえると、レアルは当面、中銀による介入が連想される4.20を下値に軟調推移を続ける公算が大きい。

更にリスクシナリオとして、域外のリスクオンの後退により、事実上の抵抗線である4.20を下回るレアル安進行を指摘したい。この点では特に、緊迫化する香港情勢に注意が必要だろう。香港では2019年逃亡犯条例改正案に反対するデモが契機となって暴力がエスカレートしており、市場では中国政府による介入も意識され始めている。今週、米トランプ大統領が自身の再選に向け経済政策を重視する考えを表明したことから、米中通商協議における何らかの「ディール」を期待する向きが大勢だが、仮に中国政府が香港のデモに介入する事態に至れば、通商協議は棚上げされる可能性が高い。こうなれば足許のリスクオンムードは急速に逆回転すると考えられるため、更なるレアル安にも一定の警戒はしておきたい。

5.本日の主要経済指標

国	イベント	予想	実績	前回
ブラジル	FGVインフレ率 GP-10(前月比)	0.37%	0.19%	0.77%
ブラジル	経済活動(前月比)	0.30%	0.44%	0.07%
ブラジル	経済活動(前年比)	1.70%	2.11%	-0.73%
米	PPI 最終需要(前月比)	0.30%	0.40%	-0.30%
米	PPI 最終需要(前年比)	0.9%	1.1%	1.4%
米	新規失業保険申請件数	215k	225k	211k
米	失業保険継続受給者数	1683k	1683k	1689k

6.来週発表される主要経済指標

国	日付	イベント	期間	予想	前回
ブラジル	11/18	FGV CPI IPC-S	Nov	0.10%	0.01%
ブラジル	11/18	貿易収支(週次)	Nov	--	-\$232m
ブラジル	11/19	FIPE CPI-週次	Nov	0.32%	0.27%
米	11/19	住宅着工件数	Oct	1318k	1256k
米	11/20	MBA住宅ローン申請指數	Nov	--	9.60%
米	11/21	新規失業保険申請件数	Nov	--	225k
米	11/21	失業保険継続受給者数	Nov	--	1683k
米	11/21	先行指數	Oct	-0.10%	-0.10%
米	11/21	中古住宅販売件数	Oct	5.49m	5.38m
ブラジル	11/21	税収	Oct	139385m	113933m
ブラジル	11/21	登録雇用創出合計	Oct	77500	157213
ブラジル	11/22	IBGEインフレ率IPCA-15(前月比)	Nov	0.17%	0.09%
ブラジル	11/22	IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	Nov	2.70%	2.72%
米	11/22	マーキット米国製造業PMI	Nov	51.5	51.3
米	11/22	ミシガン大学消費者マインド	Nov	95.7	95.7